

「外為特会が財源に向かない理由とは？そもそも財源は
国債発行で賄える。問題なのは予算を使うだけの
生産・供給能力がないことだ！」

令和4年12月6日

●ダイアトニックさんからの質問

海外からいつも楽しみに拝見しております。日経で久々に特別会計の記事が取り上げられましたが、特会に関しては以前から疑念を抱きます。毎年の大規模な予備費を積む割りに殆ど未消化のようです。かつては母屋でお粥を食うのに離れですき焼きを食うと批判され統廃合されましたが、依然不透明感が強い特会です。財政のプール論で増税を唱えるなら外為特会を筆頭により柔軟な一般会計への繰入など、特会そのものにもっとメスを入れるべきがこの議論は殆ど表に出ません。特会改革は可能なのでしょうか？それとも触れてはいけない暗黙の聖域なのでしょうか？西田先生のお考えを是非拝聴したくお願いします。

●西田昌司の答え

外為特会（外国為替資金特別会計）は、急激な円高・円安の調整をするための資金ですし、財源確保の手段として考えるべきではありません。

円高の時に円を売りドルを買って円安に誘導したりするのが外為特会の役割ですし、今のように円安の時には逆にドルを売って円を買えば多くの円が手に入りますが、財源を確保するのであれば国債を発行すれば済んでしまいますし、財源確保のために外為特会を利用する必要はありません。

税は財源ではありませんし、財源を確保するには国債発行すれば良いという正しい認識が広がりつつありますが、そんな時に外為特会による財源確保

という話が混ざり込んでくると折角の良い流れに水をさしてしまいます。為替操作と財源確保の議論がごっちゃにされてしまうことを私は懸念しています。

財源は国債を発行すれば確保できますが、財源が確保できたとしても必要な仕事ができるかという点、供給能力がネックとなります。例えば、新幹線ネットワークを一年で完成させるために 50 兆円の予算を組んだところで、それだけの供給能力がなければ予算を消化できません。

また、新幹線ネットワークを構築するには大量の鉄が必要ですが、鉄鉱石を輸入するにしても世界に鉄鉱石が十分になれば必要な量の輸入もできませんし、資源問題とも絡んでいきます。財源があれば何でもできるという単純な話ではありません。

今の、外為特会を財源にすべしという議論で抜けているのは

- 財源は、国債で賄えば無制限に確保できる
- 財源を確保できても、何でもできるとは限らないし、供給能力による制限がある

の二点があると思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>